

# 水道事業会計

## 1 業務の実績

水道事業会計における令和2年度の業務実績について、まず水道の普及状況をみると、第1表のとおり、前年度に比べ給水人口は0.2%の微増、普及率（対給水区域内人口）は前年度と同じ99.9%、給水件数は1.1%の増加となっている。また、配水管の総延長は6,059kmで、前年度より0.3%の微増であった。

第1表 水道普及状況

項目	2年度	元年度	増減	増減率
給水人口（人）	1,965,831	1,962,819	3,012	0.2%
普及率（%）	99.9	99.9	0.0	—
給水件数（件）	887,073	877,696	9,377	1.1
配水管総延長（km）	6,059	6,043	16	0.3

(注) 1 給水人口は、10月1日現在の数値である。  
2 配水管総延長のkm未満は切捨てをしている。増減は切捨て前の数値から算出している。

水量及び施設能力の業務実績は、第2表のとおりである。年間配水量、1日平均配水量及び年間有収水量は、平成29年度以降、総じて増加傾向にあり、当年度は増加している。

水道料金の対象となる有収水量の内訳をみると、家事用が前年度に比べ5.1%増加しており、平成28年度と比較すると5.9ポイントの上昇となっている。家事以外用は前年度に比べ13.9%減少しており、平成28年度からみると15.7ポイントの低下となっている。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、不要不急の外出の自粛が主因と考えられる。また、配水量に対する有収水量の割合である有収率は、前年度に比べ0.7%の増加となっている。

配水能力に関する指標をみると、施設の平均稼働状況を表す施設利用率は63.2%（前年度62.5%）、施設の年間を通じた有効利用度を表す負荷率は90.4%（同91.3%）、1日の最大配水量に対応する最大稼働率は69.9%（同68.5%）で、負荷率を除き前年度より増加している。

第2表 水量及び施設能力の業務実績

(単位 千 $m^3$ )

項目	2年度	元年度	前年度比較		すう勢比率（28年度＝100）			
			増減	増減率	2年度	元年度	30年度	29年度
年間配水量 A	192,708	191,113	1,594	0.8%	101.5	100.7	100.2	100.5
1日平均配水量 B	527	522	5	1.1	101.5	100.4	100.2	100.5
1日最大配水量 C	583	572	11	2.0	104.7	102.6	102.7	104.1
年間有収水量 D	180,293	177,564	2,728	1.5	101.8	100.2	99.7	100.2
（うち家事用）	151,784	144,439	7,345	5.1	105.9	100.8	100.1	100.4
（うち家事以外用）	28,488	33,104	△4,616	△13.9	84.3	97.9	98.0	99.6
1日配水能力 E	835	835	0	—	100.0	100.0	100.0	100.0
有収率 D/A	93.6%	92.9%	0.7	—	0.3	△0.4	△0.4	△0.2
施設利用率 B/E	63.2%	62.5%	0.7	—	0.9	0.2	0.1	0.3
負荷率 B/C	90.4%	91.3%	△0.8	—	△2.8	△2.0	△2.2	△3.3
最大稼働率 C/E	69.9%	68.5%	1.4	—	3.1	1.7	1.8	2.7

(注) 1 有収率以下の項目におけるすう勢比率欄の数値は、平成28年度の有収率等に対する各年度比率の差引きを表している。  
2 年間配水量、1日平均配水量、1日最大配水量、年間有収水量、1日配水能力の千 $m^3$ 未満は切捨てをしている。前年度比較は切捨て前の数値から算出している。